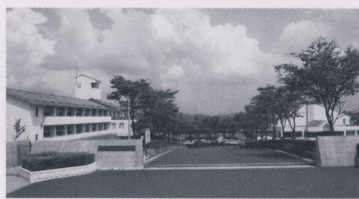


高校訪問レポート

吉備高原学園高等学校の紹介

吉備高原学園高等学校は、岡山県のほぼ中央部に位置する吉備中央町で、県が二十一世紀の街づくりを進める吉備高原都市のなかに設置されています。



岡山県が学校の施設・設備を整備し、これを県と民間で構成する学校法人が運営するという、公私協力方式による、男女共学の全寮制・普通科の高等学校です。

今回、岡山事務局の小谷と津山事務局の西村が学校に伺って、お話を聞いてきました。対応してくださったのは、校長の有吉先生と、広報担当の片岡先生です。

小 谷 今日は自動車でごくまで来ましたが、道路がしっかり整備されていて、とても快適でした。それに自然にも恵まれていて、環境的には申し分ないですね。
有吉校長 そつでしよう。さらに我が校は、甲子園球場の六・三倍という広大な敷地に、施設設備が機能的に配備され、まさに最適な教育環境と生活空間が設定されているわけです。

小 谷 そのよつですね。先ほどから何人かの生徒さんとお会いしましたが、皆さん元気よく挨拶してくれて、伸び伸びと健やかに生活している様子がよく伝わってきました。

西 村 さて、その学校生活についてですが、全寮制ということ、ホームシックになったり皆と馴染めなかつたりということはありませんか。



片岡先生 はい。親元を離れて生活するわけですから、多かれ少なかれ誰でもそういうことはあると思います。でも、寮にはいわゆる寮の舎監さんはいないんです。どうしてだと思いますか。

小谷・西村 ???
片岡先生 私たち教員が一緒に生活しているからなんです。

おこがましいかもしれませんが、私たちは親代わりのつもりでいるんですよ。

有吉校長 我々の



教員宿舎も敷地内にありますから、まさに二十四時間体制と言えるでしょう。そんな中で、生徒と先生が生活を共にしながら人間的なふれあいを通しての「全人教育（二心を育む、人間性を高める）」に取り組んでいるんです。

西 村 そつでしたか。それなら安心ですね。

小 谷 では次に、学習面での特徴を教えてくださいませんか。

片岡先生 はい。まず大きな特徴は、普通科の中に特色ある八つのコースを設けていることです。体育・福祉、国際・情報・ビジネス、工芸、陶芸、緑地造園、建築技能、ファッション・クッキングの各コースです。一年次にくつつかのコースを学習した上で自分の興味や適性を判断し、二年次から本格的にコースを選択します。

小 谷 玄関正面に展示してある備前焼なども、生徒さんの作品なんですね。



片岡先生 そつです。陶芸コースでは、以前は、人間国宝の藤原雄先生を講師に迎えておりましたし、現在は、我が校の卒業生で雄先生に弟子入りした備前焼作家が、講師として本格的な授業を行っています。

小 谷 それぞれのコースで優秀な教師陣が揃っているようですね。では、進学実績についてはどうなんでしょうか。

片岡先生 はい。卒業生の約九割が進学しています。内訳としては、大学・短大

が約五割、専門学校が四割です。
西 村 関連校への進学についてはどうですか。

片岡先生 ご存知のように、我が校の母体の中心は岡山県と加計学園ですから、希望すれば、岡山理科大学や吉備国際大学、倉敷芸術科学大学などの関連学園に、特別推薦で進学することができます。

西 村 大学に進学して人間性を高める、専門学校に進学してさらに腕を磨く、さまざまな技能を習得して就職する、本当に三拍子揃っているんですね。

小 谷 最後に、受験生や保護者に向けてメッセージをお願いします。

有吉校長 本校には、不登校経験を克服して頑張っている人がたくさんいます。そして私たちは、協調性があり新しいことに挑戦する意欲のある生徒を歓迎します。吉備高原ライフは皆さんの心を育てます。学校は楽しくなくてはなりません。私たちが、実りある三年間をお約束します。



<11月体験入学>11月16日(日)、22日(土)
学校HP <http://www.kibikogengakuen.ed.jp/>

片岡先生 十一月には体験入学を予定しています。ぜひ実際に来て、見てほしいと思います。

有吉校長、片岡先生、どうもありがとうございました。